

第 128 回 『わかるように伝えていますか』

香川大学教育学部 特別支援教育領域 教授

香川大学教育学部附属幼稚園 園長

香川大学学生支援センター バリアフリー支援室 室長

坂井 聡

前回、不安を取り除く方法について述べましたが、新しい年度が始まり、新たな不安を感じている人もいます。前回は、指導者や支援者側からの必要な教育的配慮や支援があることを伝えました。しかし、それだけでは不十分であると思います。高機能自閉症やアスペルガー症候群のある児童生徒の場合、特にそうだと思うのですが、自分自身で不安を取り除くことができるようにすることはとても大切なことだと思われます。これから社会との接点が増えていくことを考えると、そのためのスキルを身に付けておくことが重要だと考えられるからです。

このときに重要なスキルとして、「困ったときの尋ね方を知っている」、「不安であることを伝え、不安を取り除くための情報を得る方法を知っている」等が大切だと思います。自分から必要な支援を引き出す方法を身につけておくということです。そうすれば、不安を感じそうになったときに、支援を受けることができるようになり、今の状態より安心した生活が送れるようになると考えられるからです。

そのためには、日ごろの学校生活を通して、必要な支援を依頼する練習をしておくことが重要です。このとき、まず、本人が考えておかなければならないのは、自立のためには周囲から援助を受けてもよいというように考えることです。「一人でできて当たり前」とか「一人でできている様子を見せなければだめだ」とか、「一人でできないと恥ずかしい」というように考えるのではなく、周囲の人を含めた環境からの助けを得ながらも、できた方がよいと考える癖をつけておくことです。支援をする側も同様です。

そして、援助の要請があったときに、支援を依頼された側は、「自分で調べなさい」とか「どうしたらいいか自分で考えなさい」といった対応をするのではなく、具体的な解決策も含めて丁寧に指導していく必要があるのです。「あなたの場合は、その不安を解決するために、これから言うことをメモして、次の機会にこのメモを参考にすればいい」、「スマホのアプリをこんな風に使ってみたらいい」というようなことを具体的にその使い方等も含めて教えていくのです。そのためには、周囲で関わる人たちが、指導方法を共通理解しておく必要もあるでしょう。このような指導を継続していくことによって、自分で不安を取り除くスキルを身に付けることができれば、生活しやすくなるに違いありません。

一人でできないことに悩み、自分でできないことを責め、恥ずかしいと感じて社会参加するのに二の足を踏む人間を育てていくのではなく、「これがあれば大丈夫」、「困ったら人が助けてくれるから大丈夫」と考えて、社会に出て行くことができる人を育てていくことが重要だと思うのです。

誰にとっても新しい環境は不安なものです。特に高機能自閉症やアスペルガー症候群のある子どもにとっては、新しい環境を迎えることは、想像以上に不安の大きいものであるということが理解できるでしょう。想像することができた力を持った大人が、その子どもの視点に立って考えることができたとき、解決のための糸口が見えてくるのではないかと思います。子どもたちにとって、人生の大切な学びの時が始まります。これから始まる学びの時間を安心して過ごすことができるように、応援したいものです。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部特別支援教育領域 教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。